

# 母の夢が叶うとき

「ああ、そろそろ始まるわね。楽しみねえ」  
母は、両手いっぱい公演グッズを抱えながら、市民ホールの座席に腰を下ろすと、まだ深い色合いの緞帳が下りている舞台を見つめて、うれしそうに語りかけてきた。

私たち夫婦のひとり息子である真司が大学を辞めて役者になると言い出したのは、ちょうど10年前の正月のことだった。せっかく二浪もして入った大学を一年足らずでやめるというその言葉に、もちろん家族中が猛反対した。その中でも頑として話を聞かない真司に、ただ一人味方になったのが、75歳になる私の母だった。「いいじゃない。役者なんて、普通の人にはなれない仕事よ。ああ、ついに、うちの一族からスターが出るのね」

当の真司を含めた家族一同が唖然とするのを尻目に、そう、楽しそうに言った。  
私にとって母は、安定志向の塊のような人だった。生まれてから山間の小さな集落を出ることなく、教師になると、同僚だった父と結婚。兄と私が生まれてからは専業主婦として、母親として、私たちを厳しく育て上げた。とにかく計算が立たないことを嫌い、毎月毎月同じお店で、同じものを買って、決まった金額の生活費をやりくりする。そんな暮らしを何十年も続けていた。口癖は「先生の言うことをちゃんと守って、勉強をしつかりなさい。そして、安定した職業に就きなさい」だった。そのせいもあって、兄は村役場の職員に、私は両親と同じ

教師になった。同僚と結婚したのも同じだった。だから、真司が役者という、安定しているとは言えない職業に就くと言った時、母が大喜びだったことに、戸惑い以外の感情を持ってなかった。

そんな私の気持ちとは裏腹に、母は真司の応援にのめり込んでいった。自身の年金を切り詰めては、「ちゃんとご飯食べてるか」と毎月欠かさず仕送りを送っていたかと思うと、劇団の公演が決まるたびにフライヤーを送ってもらっては、集落中に宣伝して回っていたし、真司がテレビドラマにエキストラで出演した時には録画したそのシーンをそれこそ擦り切れるほど繰り返し見ていた。たまたま集落に朝のニュース番組のロケ隊が訪れた時に至っては、「いい役者がいるんですよ」とロケ隊に真司を売り込んでいた。

あれから10年。真司は、役者として実力をつけ、一部の演劇マニアには「小劇場に欠かせない若手名俳優プレイヤー」と呼ばれるまで成長し、ちらほら深夜ドラマでセリフももらえるようになった。そして、今日。所属する劇団の新潟公演が行われることになり、その晴れ舞台を見ようと、こうして母と3時間以上かけて、山形との県境近くから中越地方の市民ホールにまでやってきたのだ。  
「もつ、こんな日が来るなんて・・・ああ、こっちの方が緊張してきたわ」  
パンフレットの表紙の真司の写真を見つめ

ながら、自分が出演するかのようには深呼吸を繰り返す母の横顔を見てると、思いがけず10年来の疑問が口を突いた。  
「ねえ、母さん？」  
「なあに？」

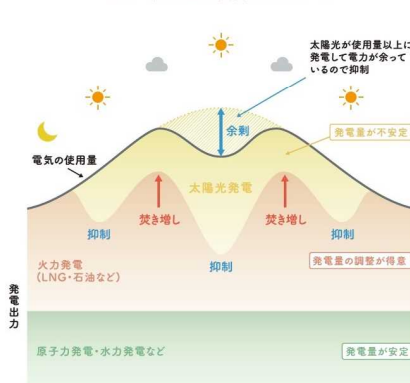
「母さんてさあ、安定した暮らしが一番の人じゃない。コッソツと真面目に暮らすことが大事って言ってたじゃない。なのに、なぜ、真司が大学を辞めて役者になりたいたって言った時、賛成したの？」

「そりゃ、真司が本気だったからよ。本気で役者になりたいって言ったからよ」  
「でもさ、母さんが大嫌いな不安定な職業よ」  
「何言ってるの。私は昔から不安定なものが大好きよ。だって、夢があるじゃない。でもね、私は夢を追いかけることはできなかったの。だから、いつか、子供や孫たちが夢を追いかけたい、そう言ったら、全力で支えよう。そして、その時のために、真面目に暮らそうってやってきたのよ」  
「そうだったんだ」  
「ああ、私の人生、コッソツとやってきてよかったわ。おかげで、こんなに素敵な夢を見れているんだから。真司と同じ夢を見れているんだから」

安定があつて、不安定がある。不安定があつて、安定がある。相反するものが、支え合つて、補い合つて、同じ夢を見る。そんな国語辞典には載っていないようなことが起こるからこそ、人生は、私たちの暮らしは、おもしろいのだ。  
長年の夢を叶えようとしている母の横で私もなんだかうれしくなつてきて、ふかふかの座席に深く身を沈めた。そんな私たちに、市民ホールのプザーが開演を告げた。

登場する人物・団体・名称等は架空のものです。

電気の発電量と使用量のイメージ



同じ不安定の話でも、こんな夢が叶う話ならいいのですが、今、日本で課題になっている不安定の話があるんです。

それは、再生可能エネルギーの発電量の話。近年、地球環境のことを考えて、発電時にCO<sub>2</sub>を出さない、風力や太陽光といった再生可能エネルギーに注目が集まっています。「すべての電気を再生可能エネルギーに」という声も年々増えており、当社は再生可能エネルギーの主力電源化に取り組んでいます。その時、考えなければならぬのは、再生可能エネルギーの発電量が不安定であるということ。電気は、発電量と使用量が常に一致しないと、最悪の場合、大規模停電を引き起こしてしまう可能性があります。再生可能エネルギーは、発電量が日照時間や風の強さといった、その時々々の天候に左右されてしまうため、それを補う必要があるのです。  
私たち東京電力は、この課題に対し、再生可能エネルギーと、発電量のコントロールが容易な火力発電や安定して発電できる原子力発電などをバランス良く組み合わせる、エネルギーミックスを推進することで安定供給を目指しています。  
みなさまの、かけがえのない、その毎日のために。